

OHMI
MIRAI
JUKU

地域をプロデュースする人材育成プログラム

淡海ネットワークセンター
(公益財団法人淡海文化振興財団)

<http://www.ohmi-net.com/>

おうみ未来塾で得られるもの

「おうみ未来塾」は、地域プロデューサーが育つ塾です。地域プロデューサーとは、地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業を起こすことのできる人を意味します。地域プロデューサーという用語をあえて用いるのは、課題発見能力と政策化能力と同時に、実践力やコミュニケーション能力、事業を起こしマネジメントする能力が、これからの活動には重要だと考えたからです。さらに市場と政策の知識を知り、世界に目を向け時代を読むことが必要です。地域社会が必要とされているが、現在提供されていない機能を自ら創り出す意志と能力を持った人物こそが、これからの社会を担うことになるからです。「おうみ未来塾」では、「地域の問題は徹底的に地域で行動し、解決する」という初代塾長日高敏隆先生の理念を継承し、地域プロデューサーに必要な能力を身につけていただきます。

おうみ未来塾に集う人たち

おうみ未来塾に入塾される方は、職業も経歴も地域もさまざまです。年齢も20歳代から60歳代までと幅広く、とにかく元気です。皆さんに共通しているのは、これまでの活動経験に加えて、この塾で学びたいことを明確に持っている点です。卒業生は、仕事をしながらあるいは仕事の中で地域づくりに取り組んだり、政治家や、社会起業家・企業家等に転身、幅広い地縁活動をするなど、卒業後も継続的に様々な活動を通して地域の課題解決に取り組んでいます。

おうみ未来塾での学び

おうみ未来塾では、従来のリーダー養成塾と違って「可塑性のあるカリキュラムと塾生の参加による塾づくり」という理念を全面に掲げています。

カリキュラムについて、塾を運営する側からある程度示しつつ、その運営については塾生の皆さんが意見を出しながら、塾の運営に参加して一緒になってカリキュラムを作っていきます。

基本的には、6月～12月の基礎実践コースは講義やフィールドワークを中心にすすめ、翌年1月から11月の創造実践コースはグループ活動となります。

基礎実践コースでは、単に講義を聴いて理解するだけでなく、討論して内容を深めることに重点を置いています。そして、私はこう学んだが他の人はどう学んだかなどそれぞれの学びを塾生間で共有できるようにしています。また、先進地に出向き、実践者と意見を交わす中で、成果だけでなくその過程を学ぶようにしています。情報収集・発信はとても重要となってきましたので、インターネットや電子メールを使えるように指導しています。

創造実践コースでは、地域の具体的な問題をテーマにグループをつくり、調査検討し、課題を発見して展望を示し、あるいは実践的な活動を通して学ぶということを行います。

卒業生のネットワーク

すでに260名以上が、おうみ未来塾での学びをきっかけに知り合った人とのネットワークを生かし、県内各地で活発な活動を行っています（2012年1月現在 1～11期生）。

地域を創る同じ思いを持った人との出会いは、卒業後もネットワークづくりに生かされています。また、企業や行政、NPOなど、違う背景を持つ仲間と一緒に活動することで、自分だけでは得られない、思いもよらぬ新しい発想が生まれたり、それぞれの得意分野を活かした連携が生まれています。

おうみ未来塾は、21世紀型の地域創造への大きな試みであると思っています。新しい人づくりのシステムを作り上げることは、日本の市民社会の発展と今後の滋賀の地域づくりに貢献ができると考えています。

塾長からのメッセージ

滋賀大学 理事・副学長 北村裕明



21世紀は分権の時代だといわれています。分権社会を実現し、ゆとりと豊かさを実感できるようにするには、権限や財源を分権型にかえる制度改革だけでなく、地域運営を担う多くの地域のリーダーが必要とされています。私たちは、地域の課題を発見し、政策化し、実行する意欲とスキルを持った地域のリーダーを、「地域プロデューサー」と呼ぶことにしました。そして、地域プロデュー

サーが育つ塾をめざして、「おうみ未来塾」を運営し、11期260名の卒業生をおくりだすことができました。

おうみは、自然資源、文化資源、経済資源が多様で豊かな地域です。おうみをキャンパスに、21世紀の地域を担う地域プロデューサーをめざしてチャレンジされることを願っています。

2012 カリキュラム

塾生が自ら作り出し、進化する塾

基礎実践コース (予定)

June	6	初旬 ●入塾式 6月9日(土) ・入塾式、「おうみ未来塾がめざすもの」 (塾長、アドバイザーからの話題提供) ・オリエンテーション ・おうみ未来塾生交流会 下旬 「地域プロデュース概論」
	7	●合宿 「地域に学ぶ1」
August	8	●講義・フィールドワーク・ワークショップ 「地域に学ぶ2」
	9	●講義・フィールドワーク・ワークショップ 「地域に学ぶ3」
October	10	●講義・フィールドワーク・ワークショップ 「地域を知る1」 「地域を知る2」
	11	●講義・フィールドワーク・ワークショップ 「地域と共に創る1」 「地域と共に創る2」
December	12	●自主研修(グループづくり) 「グループ編成・計画書づくり」

(2012年6月~12月)

地域プロデューサー像について学びます。

リーダーシップトレーニングやICT(ブログ、メールなど)、コミュニケーションという基礎能力を学びます。

地域で活動する前に、まず地域を知る方法を専門的に学びます。

地域への入り方を現場から学びます。

これまで学んだことを参考にしながら、対象地域の課題解決のための企画を考えます。

1年目

創造実践コース 2年目

(2013年1月~11月)

January	1	●地域プロデューサーのためのグループ活動
	2	●目標発表会
June	6	●中間発表会
	11	●成果発表会・卒塾式

卒業生 ネットワーク利用
おうみ未来塾の卒業生のネットワークに参加し、グループ活動のヒントや、新しい活動につながる出会いを得ます。

運営サポーターへ相談
おうみ未来塾卒業生が、おうみ未来塾運営サポーターとして、それぞれのグループ活動の相談相手になります。

※上記のほか、塾運営にかかる塾生会を設けます。塾生会では、「講義のテーマや内容」、フィールドについても話合います。このため、上記と内容が異なる場合があります。

アドバイザーからの推薦のことば

法政大学現代福祉学部教授
岡崎昌之

地域の真の姿を把握

地域づくりを進めるためには、まず自らが拠点とする地域の真の姿を把握することです。ずっと住んできたから、地域のことは何でも分かっていると、思い込むのは早計です。客観的、相対的にその地域を見つめ直すことが不可欠です。二点目は地域づくりに関する専門的な知識の獲得です。福祉、医療、教育、景観等々、現代の地域は、複雑で多様な課題を抱えています。地域をプロデュースするには、まさにこれらの課題を解決し、新しい方向性を指し示すことです。そのためには専門的な知識は不可欠です。最後は、人々や組織間の新しい繋がり形成です。繋がりや結い、ネットワークこそが、地域づくりに立ち向かう人々に、解決の道と勇気を与えてくれるのです。

こうした三点を用意してくれる場こそが“おうみ未来塾”です。

NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事
岸田真代

おうみ未来塾に！

おうみ未来塾に、確か最初は講師で、次年度からは運営に関わって12年になります。その間、さまざまな人と出会い、実に多くのことを学ばせていただきました。塾長から運営委員から、そして受講生たちから…。おうみ未来塾のすばらしさは、何といても人との出会いであり、そして何より仕組みそのものです。

基礎実践から創造実践へ、地域を見据えフィールドを持ち、自ら育っていくプロセス。そこで人が成長し、大きく変わっていく姿に、何度感動したことでしょう。感動の中で成長できるおうみ未来塾へ、ぜひあなたも!!

NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表
藤井絢子

Think locally, Act locally

滋賀はとても魅力的なところです。なんといっても、琵琶湖の存在は圧巻。生命の源“水”を湛える場であり、森林から里地・里山、そして田畑、湖への流域には、多様な自然環境、伝統文化、暮らし、食文化等、尽きぬシーズ(種)があります。

未来塾が求めるのは、これらシーズを、どうつなぎ、地域の価値を引き出すか、そのプロデュースの力です。未来塾12期生に応募下さる方々とのプロデュースの力に期待します。一人の力ではなく、チームを組み、チーム構成員の個性を出し合いながら、プロデュースにプラス相乗効果を発願していく、というのも未来塾の特長です。

他者と協働で、個の個性も輝く方を待っています。

1999~2011 カリキュラム例

塾生が自

基礎実践 コース

1年目 現場で理論・手法を学ぶ

創造実践 コース

2年目 今まで

[11期生に開催したテーマ]

※〔 〕内の数は開催した期を示しています。

[環境を切り口とした地域づくり] 1期

June	6	初旬 入塾式 ・記念講演 「湖北のまちづくりを考える」 ・オリエンテーション ・おうみ未来塾生交流会 フィールドワーク・講義・ ワークショップ ・「湖国の地域をプロデュース するとは」
July	7	合宿 ・「地域診断法」 ・「地域を協治する意味」
August	8	・「地域に学ぶ1 社会起業について考える」
September	9	・「地域に学ぶ2 地域ビジネスの組み立て方」
October	10	・「地域を創る1」
November	11	・「地域を創る2」 ・「地域を創る3」
December	12	グループワーク ・「グループ活動 計画書づくり」
January	1	
February	2	・「グループ活動目標発表会」
March	3	

March	3	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義「NPOほほハウスの歩み」彦根市〔8〕 ● 講義「水郷を活かした農の里づくり」近江八幡市白王町〔11〕 ● 講義・ワークショップ「市民活動とICT」〔11〕 ● ワークショップ「お互いを知るために」〔2〕 ● 講義「町家を活かした福祉」〔8〕 ● 講義「地域を見渡す力と見渡す人」〔10〕 ● 県外研修「郡上八幡産業振興公社ほか 水を活かしたまちづくり」〔4〕 ● 宿泊研修・フィールドワーク「まちなかの歴史的商店街再生をプロデュースする」彦根市〔5〕 ● 合宿「地域経済おこしフィールドワーク」坂田郡伊吹町内(現 米原市)〔6〕 ● 県外研修「郡上八幡産業振興公社ほか 水を活かしたまちづくり」〔4〕 ● 宿泊研修・フィールドワーク「まちなかの歴史的商店街再生をプロデュースする」彦根市〔5〕 ● 合宿「地域経済おこしフィールドワーク」坂田郡伊吹町内(現 米原市)〔6〕 ● 合宿「高島のまちづくり人と語る」「夜の雑木林と星空の観察会」高島市〔9〕 ● 講義・フィールドワーク「沖島の取り組みについて」近江八幡市〔11〕 ● 講義「北比良グループの取り組みについて」大津市〔11〕 ● 講義「NPOに求められる政策形成力」〔3〕 ● 講義「課題発見と問題解決のプロセス」〔6〕 ● 講義「環境先進国の地域プロデューサーから何を学ぶか」高島市新旭長周辺〔7〕 ● フィールドワーク「針畑郷山村都市交流館「山帰来」DVD鑑賞「針畑の自然と暮らしを探る」〔8〕 ● 講義「NPOで五方よし」〔3〕 ● 講義「湖北水源の郷づくりの取り組みについて」長浜市余呉町〔11〕 ● 講義「長浜市中心市街地のまちづくりについて」〔11〕 ● 講義「市民のエンパワーメント」〔2〕 ● 講義「葦(ヨシ)との共生」 ● 講義「地域ケアからまちづくり」〔4〕 ● 講義「雨森の多彩なまちづくりの芽生えと継続ポイント～リーダー集団の役割から学ぶ～」〔9〕 ● 座談会「多彩なチカラが地域の魅力を振り起こす」ほっこりおせんどさん山里の会〔9〕 ● ワークショップ「ブラジルボックスから多文化共生を考える」〔10〕 ● ワークショップ「地域の課題解決のために自分たちならどうするか」〔11〕 ● ワークショップ「企画力向上」〔1〕 ● 講義・実習「食と地域文化」〔4〕 ● フィールドワーク「商店街の取り組みと地域文化の創造～その担い手に求められること」彦根市〔7〕 ● ワークショップ「合意形成とグループ分けについて」〔11〕
April	4	
May	5	
June	6	
July	7	
August	8	
September	9	
October	10	
November	11	
December	12	
January	1	
February	2	
March	3	

※ほか、塾運営にかかる塾生会を設けます。
塾生会では、「講義のテーマや内容」、フィールドについても話合います。このため、カリキュラム(例)と内容が異なる場合があります。
通常の講義の他に、塾生達が自ら補いたいテーマを提案し、サブ講義を開催することもできます。今までのサブ講義例をご紹介します。
サブ講義「今も息づく米原・彦根エリアの歴史探訪」～湖北ならではの魅力的な地域資源に出会う～〔9〕
講義「プレゼンテーション講座」山口洋典氏〔5〕・卒塾生と交流
県外研修「愛媛県内子町のまちづくり・双海町「しずむ夕日が立ちどまる町」のまちづくり〔1〕
卒塾生と意見交換会～塾生5名から話題提供〔4〕 ワークショップ「知って体感!ファシリテーションシッ」〔11〕
講義「豊かな人生を育む意識改革セミナー」〔11〕

など

March	3	翌年	4	2000年グループ活動企画検討
April	4	5	5	夢発見エコ交流手づくり助成事業 湖国21世紀記念事業助成事業
May	5	6	6	現地視察(蛇砂川流域)
June	6	7	7	蛇砂川流域における 「水と暮らしに関するアンケート」 東近江水環境自治協議会との連携
July	7	8	8	現地研修西の湖「船上会談」 三島グランドワークの視察 静岡県三島市の三島グランドワークへ「 スコープ、片手にビール」でごみの川をせ の川へ蘇らせた経験を学ぶ。
August	8	9	9	蛇砂川流域における「水と暮らし に関する」アンケート調査配布
September	9	10	10	「西の湖」を舞台にした創作 狂言づくり始まる
October	10	11	11	市民活動屋台村にて「水と暮らし」 の語らいフォーラム開催 グループ活動報告書について検討 環境創作狂言「琵琶の湖」 シナリオ完成 「狂言」で環境への 気づきを伝えるこ とを発表
November	11	12	12	グループ活動 中間発表会
December	12	1	1	「水と暮らしに関するアンケート」集 湖国21世紀記念事業2次審査(フ
January	1	2	2	環境創作狂言を通して環境への気づき を持ってもらう。テーマは外来魚問題か らびわ湖を考える。
February	2	3	3	湖国21世紀記念事業採択決定 グループ活動報告書について協議
March	3	4	4	グループ宿泊会議、 グループ活動報告書の最終検討 アンケート調査を学校・教委へ送付
April	4	5	5	「奏る」「語る」「鑑る」 流域実行委員会発足
May	5	6	6	「奏でる」「語る」「鑑る」流域フォー 環境創作狂言「琵琶の湖(うみ)」 稽古の視察と打ち合わせ グループ会議報告書の内容確認
June	6	7	7	「奏る」「語る」「鑑る」 流域フォーラム第1回実行委員会
July	7	8	8	成果発表会・卒塾式 旅立ちの会
August	8	9	9	狂言を通して「水」にかかわる暮らしの中 から環境を考える活動を行うことを宣言

- ・1~11期で260名以上
- ・グループ活動は46
- ・卒塾後の進化した活動

目
でのグループ活動の例

生 セブンドロップス

「里山資源と人々の交流の創造」 8期生 里山コミュニティ夢織

「綿づくりを通して人の輪を広げよう」 10期生 おうみ

テーマ、趣旨、目的、今後の計画について

この日の懇親会で、「狂言」を使って何かできないかの言葉にメンバー全員で「それ、いい!」と決定

西の湖の船上で木村先生とともに創作狂言の内容を考察

蛇砂川流域の小学校22校6年生対象1431人に配布

西の湖に船を浮かべ、大蔵流狂言師の木村先生や、東近江の人々と構想を語る。

流域の山・農・葦・漁・商に生きる方々を招いて「水」に対する思いや視点を聞くことができた。

回収率85%

卒塾後も活動を行うことが決まる。

環境創作狂言シナリオ検討と湖国21世紀記念事業内容について合宿

6月に近江八幡で筆管コンサート、日高先生、嘉田先生、木村先生の鼎談と環境創作狂言「琵琶の湖(うみ)」の公演を決定

プログラム第1回実行委員会

「琵琶の湖」を初めて見て、狂言の迫力と面白さに感激

2007年 第1回ミーティング

研究グループ「(通称)里夢(サトコメ)」が誕生! 栗東・守山・野洲在住の1年目の地域グループ「コナン」から発展した。

澤九麻男さんと会合

未来塾3期生でもある澤さん。主な活動地、栗東・金勝(こんぜ)井上にある「こんぜ桃源郷・こんこん山」の所有者でもある。

琵琶湖博物館 牧野先生にヒアリング

滋賀の環境に関することをいろんな人に会いヒアリングしていく。琵琶湖の水は里地・里山から流れてくる。つながっている環境課題!

近江兄弟社小学校・森遊びプロジェクトスタート

活動地域における外部対象者を小学校2年の子どもたちに限定し、1年を通じた里山の訪問者になってもらう。子ども、よそ者の視点。この日はサツマイモ植えを実施した。

上砥山自治会・森林組合 情報交流会

金勝の他地域、上砥山(かみどやま)の方々と交流。住まい地から離れた山の管理や整備を行っている。金勝における金勝山(こんぜやま)は歴史・文化・精神のよりどころなのだ。

井上地区全住民アンケート調査を実施

井上は31戸、100人少しの集落。全住民と顔でつながるため、とにかく地域を歩く。住まい地でもある里山についてのアンケート調査からスタート! 住民の想いを知ることが大事。よそ者への警戒感も意外な賛同意見も確認! 集計結果を持ってまた訪問して歩く。

こんこん山環境保全活動スタート

夏が終わりよいよ里山に本格的に入る。草刈り、間伐、道や沢の整備etc。体を動かし呼吸することで自然との距離が縮まるのを感じる。素直に気持ちいい!

秋まつりの準備

「こんこん山の秋まつり」を計画。1年目は地域の人だけを対象にした。「昔はこんこん山で遊んだなあ」と年配者の声。イベント内容を考え、チラシを作り、配布する。自治会とも関係づくり

グループ活動 中間発表会

秋まつりの開催

木と共生する「ツリーイング」、豊富にある竹を使った「竹細工」、アーティストと協働した「楽器づくり体験」、そしてみんなでご飯を食べること。地域の人にとっても里山の再発見が続出!

環境保全活動は続く!

こんこん山の裏山を整備。冬の山作業もまた格別なことを知る。雪がしんと降りる中の作業。音のない世界、空気が美味しい感覚etc。

井上地区全戸訪問

秋まつりのアンケート報告と1年のお礼を兼ねて5回目の全戸訪問。顔の関係もでき「うちの山でもやって」と激励される。反面クレームも聞くがこれも成果と捉える。地域住民自身の活動や祭りに育つには、おそらく数年かかるだろう!?

成果発表会・卒塾式

おうみ未来塾10周年記念大交流会

グループ分けのための塾生会

塾の先輩方の活とパネルディス2年目の活動を

澤さんが「この指とまれ」の意思表示

10期生本講義と塾生会

活動グループ結成

9期生成果発表会・卒塾式と10期生活動経過報告・塾生会

メンバー確定

グループ活動開始 綿畑の準備

活動計画、ビジョンとコンセプトなどを協議して策定

種まきイベント開催

70名の参加で、アンケートでも好評

運営委員指導会

運営委員の先生方から「地元の参画は?」「ほの郷との関係は?」「ビジネスまでつながりなど厳しい指導と助言をいただきました。

ブログ開設

びわ湖CO2ダイエット助成金交付申請・助成決定

綿畑の管理・支柱立て

KBSラジオ出演(澤さん)

綿は実がふつとついています。

NHKあつ

夏休みおたすけ教室(守山市速野公民館) 高島「綿'sクラブ」との交流

「わた工房」を受けました。

たんぼぼまつりに出展

グループ活動中間発表会

さをり織り体験 糸車体験 20

40名の参加

第1回綿つみイベント開催 「ひこねば2009」に出展

綿くり・糸車などを30名

30名の参加でNHKテレビの取材あり

第2回綿つみイベント開催

びわ湖・まるエコ・DAY2009に出展

40名の参加

滋賀がいいもんに 出店

糸・手づくり 商品を販売

関係者話し合い

2009年度の反省と2010年度活動方針・計画検討

1 聖泉大学で活動紹介講義

聴講生40名

2 新メンバー会合

10期生以外のメンバー6名

3 成果発表会・卒塾式

「こっこんハンカチ」

活動紹介のポスターセッション
セッションを参考に各自検討

に向けての話し合い

とグループ名の決定



みず
ずけて」

くらみ順調に育成し

テレビの取材も
たよ。

の皆さんから指導を

本 10名、綿くり・
名

ブ研究活動中間発表

が体験



年度の

も含めて 10名参加

子」が卒塾記念品に!

おうみ未来塾生による多様な地域



やっかいものを
地域資源に
プロデュース!

日本初! ココイチ「近江日野産シカカレー」

滋賀県内には、約 67000 頭の鹿が生息、農産物や森林被害が深刻です。そこで「鹿」の解体～調理～マーケティングまでをコーディネートしています。
現在、フランス料理店やカレーハウス COCO 壱番屋・ホテル等で利用されるようになりました。

DATA 1/鹿肉コーディネーター 2/県内全域 3/松井賢一(心のバリアフリー・1期生) 4/県内猟友会・京都フランス料理研究会 5/Eメール: khb11674@nifty.ne.jp 6/http://www.eonet.ne.jp/~hayazaki/ 検索「鹿肉レシピ」



伊吹山麓から拡げる雑穀スモ

在塾中の3年前、衰退しかけの雑穀を復活させる活動(雑穀の地産地消を考える会)を、スタートさせました。その経験を活かし、米原の隊員として琵琶湖の水源地に移住。6月からスモを体験できる「雑穀ファーム」を甲津原

DATA 1/雑穀ファームうらら 2/米原市 4/ブレイク、mam's kitchenつぶつぶ、他 5/〒52-848-1 TEL: 090-9628-8706 Eメール: 6/http://zakkoku.shiga-saku.net

DATA

- 1/活動グループ名
- 2/主な活動場所
- 3/活動塾生(立場・役割・期生)
- 4/関連団体
- 5/連絡先
- 6/web



シニアのIT力で
地域をプロデュース!

シニアのIT力を活かしてまちづくり

シニアITリーダー養成講座を定期的開催し、そのITリーダーが地域の中で子どもから大人まで幅広い世代を対象にIT(情報技術)の支援活動を行っています。塾では、世界に目を向けながらも、地域で仲間と汗を流す大切さを学びました。これからは行政・企業・他団体と連携し、強みであるシニアのIT力で新規事業開拓を目指します。

DATA 1/NPO法人湖南ネットしが 2/滋賀県全域・関西地域 3/斎藤富士夫(代表理事・5期生) 5/TEL: 090-8146-4433(斎藤) Eメール: office@konan-net.org 6/http://www.konan-net-shiga.jp/



ピワマスを琵琶湖の
シンボルに育てることを
プロデュース!

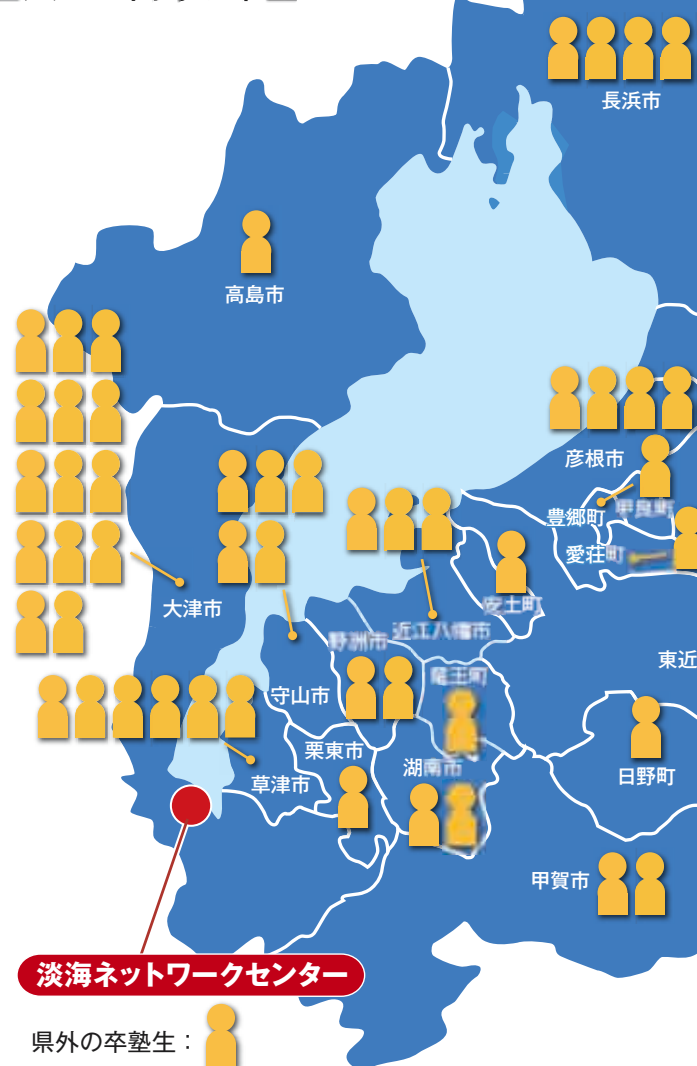
ピワマスの南湖回遊計画「大宮川プロジェクト」

ピワマスの稚魚を、大宮川に放流して6年が経過しました。地元坂本の多くの方々の参加をいただき、順調に事業は進んでいます。一昨年は、成魚に成長したピワマスが、大宮川に帰ってきました。

DATA 1/ピワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会 2/大津市坂本地区 3/今井 洋(6期)、西岡 信夫(6期)、高橋 潔(6期) 4/あめのうお(ピワマス)倶楽部 5/TEL: 090-4007-2924

フィールドマップ

過去11年間の卒塾生マップ



プロデュースの形

おうみ未来塾生の地域プロデュースの形は分野、立場など人によって様々です！ 仕事に活かす！ 社会起業・企業家に転身！ 政治家に転身！ 地縁活動に取り組む！etc
 おうみ未来塾からはばたい地域プロデューサーをご紹介します。
 おうみ未来塾であなたがしたい地域プロデュースの形を見つけませんか？



雑穀で、農村の「しごと」をプロデュース！

フードビジネス

農と食の融合モデル
 同期の仲間や卒業生と
 市の地域おこし協力隊
 雑穀栽培と集落ツアー
 などで始める予定。

甲津原富農組合、(株)ノー
 1-0307 米原市大久保
 z.aurara@gmail



社会企業で
 地域をプロデュース！

剪定枝の有効利用による薪づくり

地域の公園や街路樹を剪定する際に発生する木の幹や枝を、薪に加工して、地域の薪ストーブ利用者へ販売しています。木質バイオマス利用により、地域資源の地産地消につなげます。在塾中にNPOに参加し、その仲間と起業した Hibana という会社で始めた企画です。事業化は難しいですが、地域の森林資源を動かす仕組みを作っていくことは面白いです。

DATA 1/株式会社Hibana (ヒバナ)、株式会社ヨードクリーン 2/京都市 3/松田直子 (株式会社Hibana (ヒバナ) 代表取締役社長・3期生) 4/薪く炭くKYOTO (しんくたんくきょうと) 5/株式会社Hibana (ヒバナ) TEL: 075-803-6277 Eメール: info@hibana.co.jp 6/ http://www.hibana.co.jp/



アートで地域づくりを
 プロデュース！

守山野外美術展 おてらハブ!

m-fat は more (もっと) field (野外) art (アート) team (チーム) というキーワードを掲げ、美術展ではなく、地域社会にアートの根を広げようとアーティスト達でつくられた団体で、アートの持っている自己復元力 (心の中の足りない物を見つけ出し作品化する力) や多角的な視点を持って世界を見つめる力を活用し、想像力豊かで、未来に希望の持てる人間が育つコミュニティを作る事を目標としています。

DATA 1/m-fat/モファ 2/守山市を中心として関西全域で活動 3/川本哲慎 (m-fat 代表、未来塾11期生) 4/東光寺、幸津川自治会 5/滋賀県守山市幸津川1189 TEL: 077-585-2222 (川本) Eメール: info@m-fat.org 6/http://m-fat.org/



「顔の見える関係づくり」を
 プロデュース！

地域の国際化と多文化共生社会づくり

卒業後に事務局長に就任。女性リーダーとして組織と活動をマネジメントし、人・団体・活動をコーディネート。世代や性別、出身国や言葉などの違う人たちと、地域の課題をともに解決していくことで、多文化共生社会を目指す。

DATA 1/甲賀市国際交流協会 2/甲賀市 3/大河原佳子 (事務局長・7期生) 5/甲賀市水口町水口5676 自主活動センターきすな内 TEL&FAX: 0748-63-8728 Eメール: mifa@mx.biwa.ne.jp 6/http://www.kis5.org/



映像の力でまちづくりを
 プロデュース！

映画づくりを通じてお年寄りの心を次世代に継承

公募で集まった「住民ディレクター」たちが、映画監督・原一男氏による直接指導のもと、地元・近江八幡のお年寄りたちが「みんなに言いたいこと」を題材にした本格的なドキュメンタリー映画「結い魂 (ゆいごん)」を制作。平成23年12月に地元住民ら900人余りを集めて完成披露上映会を開催し、その後各地で自主上映を展開するなどして、言葉や文字だけではなかなか伝わらないお年寄りの記憶や願いを、「映像の力」で次世代の心につなぎとめる活動を継続しています。

DATA 1/ひょうたんからKO-MA 2/近江八幡市 3/アサヒ・アート・フェスティバル実行委員会、CM2グループ (近江八幡市立マルチメディアセンター指定管理者)、NPO法人近江八幡市中間支援センター 4/ひょうたんからKO-MAメンバー (中川豊一 (7期)、藤田知丈 (7期) ほか) 5/TEL 090-2101-6477 (藤田) /Eメール yuigon@gonza.xii.jp



「学校と家庭と地域を結び
 仕事人と語ろう！」を
 プロデュース！

社会で自立していくための基礎を養う

学校や塾や家庭以外の大人からの職業講話を聞くことにより、子ども達の職業観は広がりが、自分の将来のことを多面的に考えるようになります。子ども達だけでなく、仕事人、教員、スタッフ全てに良い刺激となっています。

DATA 1/おうみ未来塾「仕事人と語ろう！」グループ 2/滋賀県全域の小中学校及び公民館 3/小中政治 (代表・10期)、安藤和人 (10期)、松原弘保 (10期)、山城智恵子 (10期) 4/滋賀県教育委員会生涯学習課内「しが学校支援センター」 5/TEL: 090-5887-6101



地域ビジネスサイクルで
 プロデュース！

綿づくりを通して人の輪を広げよう！

休耕地を利用し「ものづくり教育」や、地域及び福祉施設と協業し、地域住民と障がい者が主体となって運営する、綿栽培～糸・布の商品化・販売までのビジネスサイクルを確立を目指しています。

DATA 1/おうみこつとん夢つむぎ (おうみ未来塾10期生グループ) 2/彦根市・東近江市 3/おうみこつとん夢つむぎメンバー (澤 とし江 (代表)、芝、北村、池田、市川) 4/琵琶湖博物館、昔くらしクラブ、滋賀県立大学、社会福祉法人ひかり福祉会、たんぼぼ作業所・布庵社会福祉法人蒲生野会、あかね寮甲良養護学校 5/滋賀県彦根市本庄町2479 (みずほの郷 澤とし江まで) TEL: 0749-43-7201 (昼) 43-5605 (夜) Eメール: sakasyo2102@leto.eonet.ne.jp

未来塾生分布人数

1人 = 5人

おうみ未来塾の概要

●「おうみ未来塾」とは

市民活動やNPOが地域運営の一翼を担う時代となった今、創造力とネットワークにより、企業や行政だけでは解決できない課題に取り組む人が求められています。3.11東日本大震災を契機として、人々のものの考え方や歴史の方向性が変わる中で、私たちは、新しい公共の担い手として、地域・社会のあり方を考えることが必要となってきました。おうみ未来塾は、こうした課題に取り組む「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

●地域プロデューサー

「地域プロデューサー」とは、地域の課題を発見し、解決のための方策を考え、そのための活動の実践や事業を興すことができる人、言い換えれば、課題発見力、政策形成力、実践力を兼ね備えた人です。おうみ未来塾では、地域プロデューサーに求められる、コンセンサス能力、ネットワーク形成力、マネジメント能力を向上させることを中心に取り組めます。

●おうみ未来塾の特徴

(1) 塾生の主体的な参加による塾づくり

塾生の主体的な参加により塾活動の企画運営を行います。カリキュラムの骨格を示しつつ塾生の意向と学びの状況を踏まえ、柔軟性のある「可塑性をもったカリキュラム」を基本としています。

(2) 多彩な塾生で構成

地域や分野、所属、世代を越えた多彩な塾生で構成します。地域を創る共通の思いを持つメンバーが、グループワークやディスカッションを重ねながら互いに高めあっていきます。

(3) 地域や活動の現場からの学びと実践

講義を聴くだけでなく、市民活動やNPO・まちづくりの実践の現場のフィールドワークを通し、草の根から地域や社会を変えるものの見方や考え方を学びます。塾活動後半には、地域プロデューサーのための実践を学ぶ場としてグループ活動を行います。

(4) 幅広いネットワークの形成

地域や市民活動のキーパーソン、企業や行政、また、それぞれの地域で活躍する卒塾生など、多様な主体との幅広いネットワークづくりを目指します。

●仕組み

受講期間は原則として約18ヶ月です。

【基礎実践コース(6~12月)】

各地でのフィールドワークを中心に、概ね月1回の講義を行います。

【創造実践コース(翌年1月~11月)】

フィールドやテーマにより、塾生数名程度からなるグループを編成し、現地調査や考察・実践等の活動を行います。活動内容や進め方により月2回以上となる場合があります。卒塾式前にはグループ活動の成果発表会を行います。

《運営委員会》

- 塾長
北村裕明(滋賀大学理事・副学長)
- アドバイザー
岡崎昌之(法政大学現代福祉学部教授)
岸田眞代(NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)
藤井絢子(NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク代表)
- 卒塾生
澤孝彦(おうみ未来塾1期生、セブンドロップス代表)

●募集期間 3月15日(金)~4月15日(日)

●定員 25名程度

●応募資格

18歳以上で、地域社会の課題解決や市民活動に主体的に取り組む意欲のある人。

●受講料と支払月

入塾時 6月 2万円

翌年 4月 2万円

※お支払い方法

4回分割払い可

研修地までの交通費や交流会参加費などは自己負担です。

●お問い合わせ先

淡海ネットワークセンター

(公益財団法人 淡海文化振興財団)

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20(ピアザ淡海2階)

TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442

Email office@ohmi-net.com

URL http://www.ohmi-net.com/

